

慰安婦問題でもあった不自然な字幕

<http://abirur.iza.ne.jp/blog/entry/12089/>

小泉首相の靖国神社参拝をめぐるTBSの字幕誤報事件が話題になっていますが、似たようなことは、慰安婦問題が論争になっていたころにもありました。10年前の9月に、中京テレビが制作した「IANFU・インドネシアの場合には」という番組がそれです。

約30分間の番組中、インドネシアの人たちがかたる言葉に、実際には話されていない言葉が挿入されたり、意味をゆがめる不自然な省略が行われている字幕が、数カ所ありました。

たとえば、元慰安婦とされる女性が慰安所での経験話すシーンで、女性が日本の敗戦によって給金が受け取れなくなったと話す場面で、番組は「戦争が終わると、日本人はだれもいなくなっちゃったんです」という字幕をあてていました。

しかし、実際に話されているインドネシア語は「あのとき、コレア(朝鮮人)はだれもいませんでした。みんな出ていってしまったのです」という意味でした。当時、朝鮮半島は日本に併合されていたとはいえ、説明なしに「コレア」を「日本人」と訳したのはいかなるものでしょうか。

また、中学2年生への授業風景では、教師が「女性たちは『学校に行かせてやる』と誘われました。でも、日本軍の性欲を満たすために使われたのです」という字幕がついていました。

ところが、実際はこれも「彼らは女性を軍隊の性の問題を解決するために使いました」と述べているだけで、「女性たちは学校に行かせてやると誘われた」などとは話していませんでした。

さらに、元慰安婦とされる別の女性が「日本兵に車に乗せられ」と字幕にある部分は、本当は「日本車に乗せられ」という言葉でした。マスコミには、日本の旧悪をあばくという大義名分のためなら、事実関係はいいかげんでもいいという「甘え」があるような気がしてなりません。

番組に証言者として登場した元第16軍(ジャワ防衛軍)作戦参謀の宮元静雄さん(故人)は当時、私の取材に対し「約3時間にわたって、慰安所の存在目的や、婦女暴行を最も禁じていた軍の綱紀のことを説明したのに、放映されたのは1分弱。それも、言葉の前後を省いて向こうの論旨に都合のいい部分だけが使われた」と憤っていました。

この宮元さんは、さきの大戦後、進駐してきた英軍の命令を無視して、降伏した日本軍の武器・弾薬をインドネシアの独立勢力に渡すのを黙認し、スカルノ元大統領による独立宣言にも立ち会った人物で、インドネシアに行くと国賓待遇を受けた「インドネシアの友」だったことを指摘しておきたいと思います。

一方、番組を制作した中京テレビのプロデューサーは「女性たちの話と字幕や通訳が食い違うのは、本当はもっと長い時間をかけて話をした中の一部分の映像を利用したから。視聴者に理解してもらうために、多少、言葉を補ったり、分かりやすくするのは、どのテレビ局も同じだ」とさも当然であるかのように語りました。

当時はインターネットも普及しておらず、こうした記事を産経が書いても読者以外には伝わりにくかった事情もありますが、歴史事実という大事な問題に関する番組づくりについて、へらへら笑いながら答えるプロデューサーに違和感を覚えたものでした。

結局、私はこの件の背景を調べるためにインドネシアでの現地取材を行い、後に樺太(サハリン)での残留韓国人取材でも同じ名前を聞くことになる**日本人の人権派弁護士**の「暗躍」を知ったのですが、その件は次回に書かせてもらいたいと思います。

12.14水曜デモ1000回への抗議活動

『慰安婦の嘘は許しません！ なでしこアクション2011』

慰安婦は強制連行された性奴隷というのは真っ赤な嘘です！もうとくにバテています！ 元慰安婦に日本政府は謝罪も賠償もする必要はありません！ 慰安婦への新たな基金は必要ありません！

日本政府と外務省は毅然とした態度をとって下さい！

水曜デモに参加する日本の国会議員よ 恥を知りなさい！

日本軍は強姦魔ではありません！ 私たちのお父さん、お祖父ちゃん、

ひいお祖父ちゃんの名誉を傷つける嘘は止めなさい！

これが普通の日本女性の思いです！

韓国水曜デモが1000回を迎える2011年12月14日水曜、日本政府に謝罪と賠償を求める慰安婦支援者達が、外務省を「人間の鎖」で取り囲むデモを行います。

いわゆる従軍慰安婦問題の嘘に、私たち日本女性はもう我慢できません。外務省前で行われる水曜デモ「人間の鎖」に向けて直接抗議活動を下記の内容で行います。

【日 時】平成23年12月14日(水) 集合11:30

抗議開始12:00~13:00頃まで

【集合場所】外務省前(東京メトロ有楽町線A4又はA8出口すぐ)

「なでしこアクション2011」の横断幕を目印にお集まりください

【呼びかけ団体】正しい歴史を次世代に繋ぐネットワーク

<http://sakura.a.la9.jp/japan/>